区分・種別	重要文化財(石造物)		
名　　称	五輪塔(ごりんとう)　１基		
所　在　地	今治市野間		
所　有　者	野間部落	管 理 団 体	今治市
指定年月日	昭和29年3月20日		
解　　説	野間部落のほぼ中央にある五輪塔で、総高250cm、総形座を含めると260cmとなる花崗岩製である。 地輪、水輪、火輪、風輪、空輪がよくまとまり、全体として均整がとれ、形式、技法とも鎌倉時代を代表する遺品といえよう。 地輪側面の銘文は風化のため見えにくくなっているが、拓影によると次のようである。「志者為亡妻　紀氏女乃至　法界平等利　益之故也　嘉暦元年丙寅四月□□日　願主比丘□春」（注嘉暦(かりゃく)元年は1326年） なお、平成元年度に、解体修理が行われた。その時発見された木製五輪塔は全国初のもので、人骨は25歳前後の女性と鑑定され、銘文中の紀氏の女(むすめ)と一致している。また木製五輪塔には水晶の舎利(しゃり)と丸薬が奉納されていた。		